

## 温泉小学校いっばいに「ありがとうの花」を咲かせよう ～学習発表会の歌～

「ありがとうの花」(坂田おさむ 作詞・作曲)を、音楽朝会で練習しました。まず、ステージ上の6年生がお手本を示しました。地域の専門家のご指導も加わり、以前より高音がきれいに響くようになっていました。次に、全校生で生き生きと歌いました。



次に、全校生で生き生きと歌いました。

この曲は学習発表会で演奏しますので、どうぞお聴きください。この歌の通り、温泉小学校いっばいに「ありがとうの花」を咲かせたいと考えています。

### ありがとうの花 (5年 音楽教科書より)

- 1 ありがとうって言ったら みんなが笑ってる その顔がうれしくて 何度もありがとう  
町じゅうに咲いてる ありがとうの花 風に吹かれあしたに 飛んでいく

※ ありがとうの花が咲くよ 君の町にも ホラいつか  
ありがとうの花が咲くよ みんなが笑ってるよ (2番 歌ってるよ)

- 2 ぼくらの夢はみんなと 一緒に歌うこと あったかい手をつなぎ みんなで歌うこと  
小さかった花の夢 おっきくふくらんで みんなと一緒にありがとう 歌い出す ⇒※

## 「平和」とは ～ケンカやいじめがなく、笑顔で仲良くしていくこと～

11日(日)、戦没者を追悼し、恒久平和を求めて、平成30年度新温泉町恒久平和祈念式が夢ホールで行われました。式の冊子には、町内小中高等学校より寄せられた平和作文が掲載されていました。本校6年児童の作文を抜粋(冒頭と終末)で紹介합니다。

### 未来の平和

ぼくが思い描く「未来の平和」とは、みんなが仲良く助け合い、安心して暮らせる世の中になることだ。決して特別なことではない。日常生活の中で、ケンカやいじめがなく、ぼくも友達も、親も地域の人たちも笑顔で仲良くしていくこと。(中略)

原爆の被害を受けた人たちはどんどん高齢化していき、生の声で語ってもらえる機会も少なくなっていく。戦争の怖さが忘れられてしまわないよう、ぼくたちが語り継いでいくことが大切だ。広島の小学生は最後にこう言っていた。(8月6日 広島原爆死没者慰霊式・平和祈念式において)

「私たちは無力ではない。私たちが学んで心に感じたことを伝える伝承者になる」と

「平和の誓い」を読んだ小学生も、ぼくと同じ6年生だ。場所は離れているが、共通した思いがあることが分かった。

「戦争の怖さを未来に伝える」「平和の大切さを忘れさせない」ということだ。

ぼくは、夢千代の里に住んでいる。夢千代日記は、胎内被爆者の話として、全国に知られている話だ。だからこそ、ぼくもこの湯村温泉で戦争のことを語り続けたいと思う。その第一歩としてぼくは今、この作文を書いている。今後も何か、行動を起こしていきたい。このようなことを一人でも多くの人たちが続けることで、未来は夢や希望、笑顔に満ちた世の中になると考える。ぼくは、そんな未来を生き続けたい。

夢ホールが広いせいか、遺族席に空席が目立ち、作文中の「原爆の被害を受けた人たちの高齢化」を、新温泉町でも実感しました。だからこそ、これからの世代である小学生が「伝承者」になり、「戦争のことを語り続けたい」「今後も何か、行動を起こしていきたい」という決意をもってくれていることは、本当に心強い限りです。その第一歩として、標記の「ケンカやいじめがなく、笑顔で仲良くしていく」ため、「相手の気持ちを考えた言動ができる温小っ子」「自分がされて、言われて、嫌なことはしない、言わない温小っ子」に育ってほしいと願っています。ご家庭におかれましても、ご協力をよろしくお願い申し上げます。